

世界から滋賀へ、滋賀から世界へ。

2022
vol.06

[滋賀テックプランター]

SHIGA TECH PLANTER

滋賀を新たなイノベーションの聖地へ

**地域に根ざした企業との連携で
エコシステムを構築する**

2022 vol.06 SHIGA TECH PLANTER

[滋賀テックプランター]

目次

- 03 滋賀を新たなイノベーションの聖地へ
- 05 地域に根ざした企業との連携でエコシステムを構築する
- 10 滋賀テックプランター2022
- 18 滋賀から世界を変える挑戦者たち
- 24 滋賀ジュニアリサーチグラント
- 28 滋賀の創業エコシステム

発刊に寄せて

雑誌『滋賀テックプランター』は、滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムが取り組んでいる、滋賀県における産業創出に資する活動を紹介する雑誌です。滋賀県内には、多くの研究機関が揃い、グローバル企業の研究開発拠点が集積しています。一方で、その土地に根ざした高い技術力と独自のサービスを備えた地域中核企業も数多く所在しています。研究者やベンチャーにとって、地域企業との連携は、単なる地域への貢献にとどまらず、実証フィールドとして研究成果や事業の基礎を固めるきっかけにもなります。そこで、今号では特集「地域に根ざした企業との連携でエコシステムを構築する」(P5)を組み、地域企業がエコシステムにどのような作用を及ぼしうるのかを紐解き、その可能性を追究しました。他方、10年後を見据えて取り組む次世代育成事業「滋賀ジュニアリサーチグラント」(P24)は、滋賀県の中高生の研究活動を、滋賀県内の若手研究者が支援し、さらに滋賀に所在する企業が応援するかたちに発展してきました。これまでの活動全体を振り返ると、コンソーシアムとして6年目を迎える中、こうした地域ぐるみで挑戦する人を応援する文化が醸成され、まさに滋賀ならではの生態系(エ

コシステム)が構築されてきたことがわかります。今後、この生態系をさらに拡大し、「滋賀から世界へ、世界から滋賀へ」を実現するために、本誌をご覧いただいた皆さまには、滋賀の未来をともに創るパートナーとして、ご参加、ご支援いただけますと幸いです。

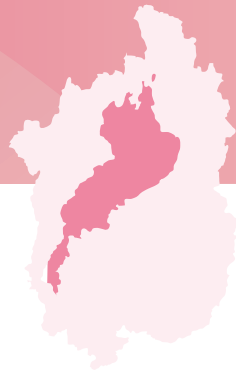
(岸本 昌幸)

SHIGA TECH PLANTER vol.06

2022年7月1日 発行

編集長	岸本 昌幸
記者	磯貝 里子、川名 祥史、 小山 奈津季、中嶋 香織
表紙・DTP	高杉昭吾デザイン事務所
発行人	丸 幸弘
発行元	リバネス出版(株式会社リバネス) 〒162-0822東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル6階
TEL	03-5227-4198
FAX	03-5227-4199
URL	https://lne.st
MAIL	shiga@lne.st

滋賀を新たなイノベーションの聖地へ



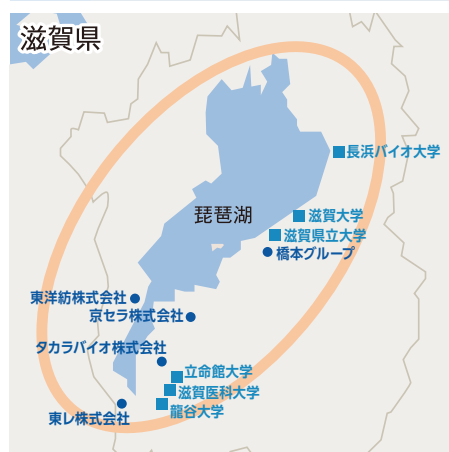
滋賀発成長産業発展の可能性

グローバル競争が一層激化する中、新たな成長分野を切り拓き、滋賀県の成長を牽引する研究開発型メガベンチャーが、ここ滋賀から生まれる可能性はあるのだろうか。答えはYESだ。滋賀には、琵琶湖という豊かな水環境があり、その周りを取り囲むかのように、研究に力を入れる大学とグローバル企業の研究開発拠点が集積している。ベンチャー企業の聖地といえば、これまでに多くの名だたるベンチャー企業が誕生したシリコンバレーが思い浮かぶだろう。ここ滋賀にも、独自の特徴を生かした「シガコンバレー」となる素地は揃っているといえるのではないだろうか。そんな仮説をもとに滋賀から新たなイノベーションを生み出すべく、2016年より創業支援プログラムとして「滋賀テックプランター」を開始した。

コンソーシアムの発足

素地はあるが、それだけでは研究開発型メガベンチャーは生まれない。それを活かし、ベンチャー企業を発掘・育成し、成功へ導くプラットフォームが必要になってくる。そこで、2017年に各構成機関が有する知的資源および経営資源を有効に活用し、相互に連携して協働することにより、本県の強みを活かした滋賀発成長産業の発掘・育成と、これらの成長を支える取り組みが自立・継続的に行われるベンチャー・エコシステムの形成を図り、もって滋賀県産業の振興・発展および地域の活性化につなげることを目的として、「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」が発足した。

本コンソーシアムでは、10年間で研究開発型メガベンチャーを生み出し、滋賀県で循環していくエコシステムの構築を目指している。



※シリコンバレーと滋賀県を同縮尺にて比較



「滋賀発成長産業の発掘・育成に関する連携協定」の締結式
(2017年4月12日)



数字でわかる 滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムの今

「滋賀県には13の大学^{*}、3万人を超える学生、そして彼らを指導する研究者がいる。琵琶湖の周りにはグローバル企業の工場や研究所が集積している。テクノロジーベンチャーを生み出し、支援する素地は十分にあると思っている」というコンソーシアム発足時の三日月大造県知事の言葉を証明するかのように、これまでに6回実施されたビジネスプランコンテスト「滋賀テックプラングランプリ」には、延べ145チームがエントリーしている。その中から54のファイナリストを選出、6件の最優秀賞、44件の企業賞受賞チームを輩出した。

目指しているのは、ただ連携をすることではなく、本当に世界を変えること。ベンチャーを立ち上げることはチームビルディングの1つの手法であり、会社にしようとするパッションとモチベーションがチームの動きを加速する。実際に、テックプランターのエントリーチームからパートナー企業との共同研究・共同開発が多数生まれている。さらに、エントリーチームのうち9社が法人化を済ませ、7チームが法人設立を検討、製品のリリースや海外展開、資金調達に成功したチー

ムが出始めるなど、世界を変える可能性を秘めた新たな産業のタネが着実に芽吹き始めている。

チームの成長を加速しメガベンチャーへの道を切り拓くには、研究開発によるサービス開発だけでなく、事業としての収益性を確保するための事業開発、さらに人材採用や資金調達、事業計画策定などの企業としての土台を固めることも重要である。

また、超長期的な視点では、10年後の産業を支える中高生の研究活動を滋賀県内の大学院生、研究者と共に支援している。パートナー企業や大学、滋賀県教育委員会も成果発表会に参加するなど、地域ぐるみの取り組みへと発展してきている。

今後、コンソーシアムの活動を一層強化し、それぞれのフェーズで必要な機会を用意し、さらなる成長加速を図っていく。

※コンソーシアム発足当時

エントリー数	145 チーム うち 42 チームはエントリー時点で法人化済み
ファイナリスト数	54 チーム
最優秀賞／企業賞	6 件 / 44 件
新規法人設立	9 件
法人設立準備・検討中	7 件
パートナー企業	のべ 45 社
次世代育成	30 チームの中高生を採択 うち 12 件の企業賞を授与

2022年3月31日時点

地域に根ざした 企業との連携で エコシステムを構築する

2017年に、滋賀県、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学、長浜バイオ大学、立命館大学、龍谷大学、滋賀銀行、関西みらい銀行、滋賀県産業支援プラザ、リバネスの11機関で締結した「滋賀発成長産業の発掘・育成に関する連携協定」から5年が経過し、コンソーシアムをあげて取り組む滋賀テックプランターには、これまで145ものチームによるエントリーがあった。こうして集まったチームの研究成果や開発したものを社会実装させていくための鍵は、意思決定が早く、地域貢献にも理解のある地域中核企業との連携にある。本特集では、地域企業がエコシステムにどのように作用し得るのか読み解いていく。

次世代経営者と 滋賀発ベンチャーで つくる産業

10年で滋賀から世界に羽ばたく新産業を創出すべく設立された、滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム。大学等の技術を用いた研究開発型ベンチャーが多数立ち上がり、事業化に向けた議論が続けられている。三日月知事との意見交換からも、地域振興に熱をもった地域企業との連携により、滋賀県のもつポテンシャルを最大限に活用した、支援・連携体制の重要性が語られた。

2022年1月12日には、滋賀の地元企業から大手企業まで多くの企業が所属する滋賀経済産業協会の若手経営者が集う「あさって塾」にて、その意見交換が行われた。これまでに滋賀テックプランターを経て生まれたベンチャーの株式会社ノベルジェンと株式会社イヴケアも講演を行い、地域企業との連携に向けた議論を行った。



新産業創出について

滋賀県知事 三日月 大造 氏

滋賀県には、世界に名だたる企業の拠点が集積しているが、これは、地の利、水の利はもちろんのこと、高い技術力と独自のサービスを備えた地域企業の皆様があって、そして民間の研究機関や大学が中心となって研究開発に力を入れてきたという背景があるからだ。こうした強みを生かして、「新たなチャレンジが日本一しやすい滋賀県」をビジョンに掲げ、世界の課題をビ

ジネスで解決し続けられる産業を生み出していく土壌をつくりたい。そのために、産官学金が一体となって、新たなものづくり企業の創出を行う、滋賀テックプランターを実施している。今日皆様にご紹介する、株式会社ノベルジェンの小倉氏と株式会社イヴケアの五十棲氏はまさにそういった取り組みから志を持って生まれてきたベンチャーである。新産業の創出は、単に大手企業だけ、金融機関だけに任せておくのではなく、地元企業が持っているフィールドを活用しながらともに事業を成長させていく姿勢が重要である。今日この場を、そういった出会いの場としていただきたい。

価値の重ね合わせで 新産業をつくる

株式会社リバネス 代表取締役社長 COO 高橋 修一郎 氏

地域と東京の研究費配分比率やベンチャー設立数比率を見ると、東京が占める割合は4分の1に満たない。一方で、ベンチャー企業への投資数比率を見ると、

4分の3が東京に集中している。もちろん資金が集まりやすく成長の早いIT企業が多いという理由もある。しかし、地域を回っていると、ものづくりや農業など、ITだけでは完結しないような技術、リアルテックを持っている研究者やベンチャー企業が眠っていることがわかる。そういった種を発掘し、芽吹かせていくために、テックプランターを始めた。しかし、課題もある。ベンチャー企業が立ち上がる一方で、地域企業との連

携にはなかなか至らない。なぜなら、そもそも出会う機会がなく、出会ったとしてもお互いに理解し合えていないからだ。そんな中で、地域で新しい価値を生み出していこうという場合に、リバネスのコミュニケーターが中堅企業とベンチャー企業の両方を理解し、連携させて、新しい事業をつくるという取り組みを始めた。ありがたいことに、橋本建設のような地域企業

が持つ現場でベンチャー企業の技術を実証実験するといった連携事例が生まれ始めている。これは、ベンチャー企業にとっては、プロトタイプ制作や量産化など、成長のために超えなくてはいけない壁を乗り越える機会になり、地域企業にとっては、最先端の技術を取り入れた新規事業になる。これを皆さんと一緒に実証して、持続可能な事業をつくっていきたい。

バイオテクノロジーで社会課題を解決する

株式会社ノベルジェン 代表取締役社長 小倉 淳 氏



遺伝子工学のバックグラウンドを生かして、基礎研究から社会課題の解決に挑戦するノベルジェンは、テックプランターの後押しを受けて2019年に創業し、現在に至る。最近では滋賀県からも助成金など様々なサポートを受けながら、研究開発を進めている。現在、世界中で問題視されているマイクロプラスチック。生物の食物連鎖を経て、有害物質を溜め込みながら濃縮されていき、問題に繋がっているといわれている。これを遺

伝子工学を駆使して、マイクロプラスチックを吸着するような粘着物質を出す微細藻類を特定、培養し、除去する技術開発を行っている。他にも、ゲノム編集を活用した昆虫食による食糧生産プロジェクトに取り組むなど、多数のプロジェクトを推進している。フィルター技術や水質浄化のプロジェクトなど地域の企業と連携を生みながら新しい産業を一緒に作り、次世代に豊かな自然と安全な食を残していきたい。

優しいまなざしに満ちた well-beingな社会を実現する

株式会社イヴケア 代表取締役社長 CEO 五十棲 計 氏



人が肉体的に健康だけでなく、精神的に、社会的に満たされた社会、つまり、well-beingな社会を実現するために、滋賀大学認定ベンチャー第1号としてイヴケアを設立した。毛髪からストレス状態を分析・評価する技術を軸に、分析・評価事業とメンタルヘルスクア事業を行う。一般的なストレスチェックと異なり、毛髪に蓄積された成分から長期的なストレス状態を一

度に可視化することができる。そんな技術を活用して、現在、滋賀レイクスターズとの共同研究で、スポーツ選手のストレスに関する課題解決を行っている。このように企業と共に取り組み、その成果をサービスとして提供することで、最終的には企業全体の生産性の向上につなげていったり、社員が自分のメンタルヘルスに関心を持つきっかけにしていきたい。

コンソーシアム事務局より

三日月知事が期待するように、滋賀県ではものづくり産業と研究機関、大学との連携により、大学発の技術シーズを軸に事業を創るベンチャーをはじめ、新しいことに挑戦する人が続々と生まれている。彼らとともに滋賀から成長産業を生み出したい人は、ぜひ滋賀テックプランターの現場にぜひ参加してほしい。



パートナー企業紹介

株式会社橋本建設 代表取締役 橋本 健一 氏

時代の変化を予測し 第二次産業をアップデートする ～地元企業とアカデミアの挑戦～

滋賀県彦根市に本社を構える建設会社、株式会社橋本建設。建設事業の他にもグループ全体で土地開発や不動産業、発電事業、そしてクラフトビールの醸造・販売という幅広い分野の事業に取り組んでいる。仕掛け人である社長の橋本健一氏はどのような未来を設計し、構築しようとしているのか、話を伺った。

建設業の「進化」を求めて

橋本建設は、戦後にプロパンガスの販売業を開始した、ガスインフラの整備が進んでいくことを受けて建設資材の販売を始めたところからはじまり、1971年に建設業許可を取得した。社会の動きに柔軟に対応して事業を変えてきた橋本建設が掲げるスローガンは「進化」だ。

3代目社長を務める橋本氏は東京でIT企業に勤めてから家業を継いだ。社会の動きを敏感に意識する習慣が身についていた橋本氏は、現場で働く人材が資本である建設業にも進化が必要だという意識があった。特に、地域の中でも同業他社が多い建設業界で競争をしてもマーケットが限られている。競争力を上げるためには、アカデミアと連携し、技術力と生産性の向上が必要になってくると考えたという。そして、ゆくゆくは滋賀発で全国へ打って出られるような技術とブランドを築こうと、新たな仕掛けに挑戦し続けているのだ。

アカデミアと連携し、事業をアップデートする

橋本氏はテクノロジーをベースとした自社の強みを確立するため、ドローンを建設現場に導入したり、大規模な太陽光発電所を造成するなど、さまざまな取り組みを行ってきた。その裏には、アイデア段階からなかなか進まなかったものも沢山あるという。例えば、近江牛の畜産廃棄物を利用したバイオマス発電システムを開発しようと、専門的な知識が必要なため大学に相談したことがあった。このときは、研究者の専門分野と実際の畜産廃棄物の状態と事業イメージをすり合わせていく中で、なかなか前に進まなかったという。このように最先端技術の事業化には困難も多い中で、橋本グループ・地元・大学の連携のもと、新規事業として立ち上げたクラフトビール醸造会社「彦根麦酒」では大学と積極的に連携している。具体的には、滋賀県立大学と連携し、環境に配慮した建屋の建築設計を行い、日本空間デザイン賞2021にてサステナブル空間賞を受賞した。また、長浜バイオ大学と酵母の採取・分離に関する共同研究を行い、製品化に向けてのプロジェ

クトを推進中だ。

こういった大学との連携による新規事業創出や、独自の技術開発を建設事業でも取り入れ、事業のアップデートをするべく、滋賀テックプランターへの参加を決めたと橋本氏は語る。実際、取り組みに参加してから大学研究者から提案や相談を受けるなど産学連携の動きは加速したという。社会実装や実証試験を目指す研究者の発信の場でもあり、新たな技術シーズを求める企業の発信の場でもある滋賀テックプランターは、地域の中で大学と企業が呼応し合う場として機能しているようだ。

研究の積み重ねが新たな技術とビジネスを築く

現在、第6回滋賀テックプランングランプリにて橋本グループ賞を獲得した龍谷大学 玉井鉄宗氏と「彦根麦酒」の事業で新たな試みに挑戦している。それは、琵琶湖の水草堆肥によるビール麦の栽培だ。2021年11月に醸造所の前で播種し、実証試験を開始。麦の成長は順調だという。この新たな試みの狙うところは、繁茂が問題となっている水草を有効活用し、肥料まで滋賀県産の「原材料オール滋賀県産ビール」を生み出すことだ。栽培実験というと、非常に時間がかかる。しかし、地道で長い道のりであっても、水草堆肥の開発は滋賀ならではの研究であり、滋賀および彦根を際立たせるブランドとして確立される可能性に期待しているのだ。それは彦根城の世界遺産登録や国スポ・障スポ主会場開催など、数年の間に全国の中でも彦根市が存在感を強めるであろうことを視野にいれ、進化をやめないための布石でもある。

「今の仕掛けが新たな技術として成熟するのが、来年か、10年後か、それはわかりません。でも時代が移り変わる限り進化をやめたら退化してしまいますから」と、橋本氏は語る。滋賀県の研究者とともに、テクノロジーベースでnewビジネスを生み出そうとする橋本建設が、彦根市、ひいては滋賀県の活性化の鍵を握っているのは間違いない。今後の動向にも注目したいところだ。



彦根麦酒 荒神山醸造所



龍谷大学 玉井鉄宗氏と水草堆肥の有効性を実証試験しているビール麦の畑



世界から滋賀へ、滋賀から世界へ

SHIGA 2022
TECH PLANTER

始動!

科学・技術で世界を変えたいという情熱のある
学生、研究者、企業のチャレンジをお待ちしています！

募集分野

“モノづくり” “水・環境”等の課題解決に資する
研究開発型のテクノロジー全般

モノづくり
分野

バイオ、
ヘルスケア分野

食、農業、水産、
水・環境分野

こういう方に
オススメ！

研究成果を社会に活かしたい！
技術を社会に活かす仲間がほしい！

エントリーフォームでの記入事項

TECH PLANTERメンバーに登録ののち、
Webフォームにご記入ください

主な
入力
項目

- ☐ チーム情報(1名でも可)
- ☐ コア技術(強み)
- ☐ 解決したい課題
- ☐ 将来のビジョン

エントリーからグランプリまでの流れ



最優秀賞

賞金30万円

企業賞

賞金10万円

審査項目

書類選考を行い、滋賀テックブラングランプリへ
出場するチームを選考します。

1新規性があるか

2実現可能性があるか

3世の中を変える可能性があるか

4事業に対するパッションがあるか

新しい一歩を今、ココから！

申込

2022年4月1日(金)～2022年5月17日(火) ※本年は募集終了

表彰

最優秀賞、他企業賞

対象

- ① 科学・技術ベースの創業に興味・関心があるベンチャー、チーム、個人であること
- ② 年齢・国籍・所属不問、学生も参加可
- ③ 世界を変えようのQuestionとPassionを持っていることが望ましい

詳細

下記URLもしくは、右記のQRコードからご覧ください
https://ld.lne.st/shiga/tp_shiga2022/

来年も
募集予定



SHIGA TECH PLANTER 2022 スケジュール

2022年

2023年

4月 4月1日 エントリー受付開始 県内各地で説明会

5月 5月12日 キックオフイベント

5月17日 書類提出締切

6月

7月 7月9日 第7回滋賀テックプラングランプリ

8月

9月 リアルテックスクール

10月

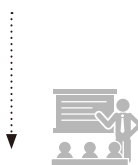
11月

12月

1月

2月 投資プレゼン会

3月



コミュニケーターによる
ハンズオン支援

チーム形成 / プラン構築 / 登記
プロトタイプ支援等



SHIGA TECH PLANTER 2022パートナー企業



関西みらい銀行



KYOCERA



滋賀銀行



TakaRa

TOYOB0
Beyond Horizons

TORAY

HASHIMOTO
GROUP

お問い合わせ

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム事務局(担当:岸本)

TEL:06-6125-5622 / Mail:shiga@Lnest.jp

審査員



株式会社リバネス

代表取締役社長 COO

高橋 修一郎

審査委員長

設立時からリバネスに参画し、教材開発事業やアグリ事業の立ち上げを行う。大学院修了後は東京大学教員として研究活動をする一方でリバネスの研究所を立ち上げ、研究開発事業の基盤を構築した。さらに独自の研究助成「リバネス研究費」のビジネスモデルを考案し、産業界・アカデミア・教育界を巻き込んだオープンイノベーション・プロジェクトを数多く仕掛ける。2010年より代表取締役就任。



京セラ株式会社

執行役員 研究開発本部長

仲川 彰一

1988年京セラ(株)に入社。総合研究所に所属し、シミュレーション技術の普及と開発、セラミックスの衝撃破壊の研究、車載用セラミック基板の開発などに従事。2011年よりSOFC形燃料電池の開発に取り組み、2014年より事業部にて事業化に携わる。2016年、総合研究所(現ものづくり研究所)、2019年先進マテリアルデバイス研究所、2021年4月より研究開発本部を担当し、現在に至る。



タカラバイオ株式会社

取締役 専務執行役員

宮村 毅

1988年京都大学大学院農学研究所(修士課程)修了後、寶酒造(株)(現ホールディングス)入社。2002年タカラバイオ(株)設立。2009年1月営業部長、同年6月執行役員、2014年6月常務執行役員。2018年1月事業開発部長、同年6月取締役就任。2020年4月営業本部長などを経て、2022年4月より現職。



東洋紡株式会社

イノベーション部門統括、常務執行役員

大田 康雄

1959年滋賀県生まれ。1984年京都大学工学研究科(修士課程)修了。2005年同大学より博士号(工学)取得。1984年に東洋紡(株)に入社、総合研究所(大津市堅田)にて主に高性能繊維の研究開発に従事。2007年より総合研究所所長、2009年バイオケミカル事業部長、2013年東洋紡米田(株)社長等を経て現在は同社の常務執行役員としてイノベーション部門を統括。滋賀で育ったご縁で、少しでも多くの起業家のお手伝いができれば幸いです。



東レ株式会社

フィルム研究所所長(兼)BSF技術部主幹

長田 俊一

1995年東レ株式会社に入社し、フィルム研究所(大津市)にて、フィルム製膜プロセス、ナノ積層フィルム、自己治癒フィルム等の研究開発に従事。2012年東麗先端材料研究開発(中国)有限公司フィルム技術部部長、2016年同材料応用開発センター所長(兼)フィルム技術部部長、2018年東レ株式会社フィルム研究所所長に就任、2022年より現職。



株式会社橋本建設

代表取締役社長

橋本 健一

1974年滋賀県生まれ。1999年日立公共システム(株)入社、システムエンジニアとして行政向けシステム構築に携わる。2003年に(株)橋本建設入社、2019年より同代表取締役。2019年11月彦根商工会議所副会頭就任。前職での経験を活かしICT技術を積極的に取り入れた建設工事を推進中。他にも彦根観光人力車、クラフトビール事業立ち上げなど「まちをつくる会社」として、微力ながら滋賀県の活性化に尽力しています。



株式会社関西みらい銀行

法人業務部地域戦略室長

堀江 明弘

1997年3月に慶應義塾大学経済学部卒業、4月に大和銀行(現りそな銀行)入行。大阪本社で西日本エリアの法人部門の企画推進、従業員組合専従、大阪市内と大阪府下の営業店で法人営業を担当。2017年7月から枚方・寝屋川エリアで法人部長、2019年4月から泉大津支店で支店長を歴任。2021年10月から関西みらい銀行法人業務部地域戦略室長に就任し、現在に至る。



株式会社滋賀銀行

営業統轄部 ソリューション営業室 地域振興グループ 課長

河合 充裕

1992年滋賀銀行入行。主に滋賀県内で支店勤務。2013年錦織支店長、2016年審査部、2017年営業統轄部、2020年6月地域振興室長就任。2021年6月ソリューション営業室に改組。ニュービジネス支援や産学官連携、官民連携、まちづくりなど地方創生に関わる。



公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

常務理事

月瀬 寛二

1980年滋賀県庁入庁。工業技術センターにて、ものづくり企業への技術指導、企業や大学との共同研究開発に携わる。また、新産業振興課(現ものづくり振興課)では、科学技術施策や産学官連携事業の推進に当たる。2011年滋賀県東北部工業技術センター所長、2014年滋賀県工業技術総合センター所長に就任。2018年より現職。



滋賀県

商工観光労働部 次長

岡田 英基

1994年滋賀県庁入庁。2016年琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課長、2017年農政水産部農政課長を経て米原市副市長に就任。2020年滋賀県庁へ帰任し、文化スポーツ部管理監就任。2022年4月より現職の滋賀県商工観光労働部次長に就任し、女性活躍やこ滋賀推進についても携わる。

1 医療現場の苦労を減らし隊

滋賀医科大学 石山 博章 氏



経腸栄養注入作業を楽にするシリンジノスル

経腸栄養の現場では、シリンジを用いて粘度の高い液体を注入する作業が日常的に行われ、シリンジコネクタの頻回な回転脱着や注入時の抵抗増加などによって、看護師さんや介護を行う患者家族の作業負担になっている。そこで、この問題の解決策として作業負担を軽減する改良コネクタを考案した。



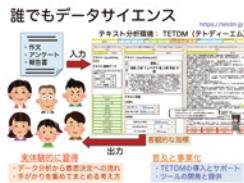
2 てと

滋賀県立大学 砂山 渡 氏



誰でもデータサイエンス

データサイエンスとは、データから意思決定の根拠となる知識を得る過程と考え方を習得することという。アンケートやレビュー記事、報告書、メールなど、目の前に電子テキストがあったときに、誰でもテキストを分析して、その意味を理解したり、新しい発想を得て、次の意思決定に繋げられるようにする。



3 植物の能力を甘く見るな!

龍谷大学 塩尻 かおり 氏



匂いを介した植物間コミュニケーションを農業へ

植物は被害をうけると匂いを放出する。その匂いを隣接する植物が受容すると、前もって防御をし迫りくる被害から身を守ることができる。これは、匂いを介した植物間コミュニケーションと呼ばれる現象であり、これまでに40種以上の植物種で確認されている。これを、農業に活かそうという試みである。あぜ道などに生えている雑草を刈り取って匂いを放出させることで、作物の防御力を高め、農業の使用を減らすという、一石二鳥を狙う。



4 つばめ製薬

つばめ製薬 草桶 大輝 氏



次世代点眼薬で点眼困難者を失明から救え

「極微量」+「フリーアングル点眼」という新技術によって、既存点眼薬の未充足ニーズをワンショットで解決し、失明に至る不幸な人をゼロにする。この新技術を日本の製薬企業・医療機器企業にライセンスアウト、日本から世界を相手にビジネスを展開し、既存の眼科治療を簡単・便利なものに変えていく。



5 バイオミネラルナノファイバー

同志社大学 奥田 耕平 氏



カサガイの歯の模倣による高強度バイオマスナノファイバーの開発

地上で最も丈夫な生体鉱物であるカサガイの歯の構造を模倣することで、製造に膨大なエネルギーを有する炭素繊維やガラス繊維に代わる新規の高強度バイオマスナノファイバーを森林資源と鉱物資源から開発し、環境に優しく、かつ、丈夫な構造材料として利用する。



6 フラーレンクリエイター

滋賀県立大学 田中 萌 氏



水溶性フラーレン重合体の太陽電池への応用

水に溶けるフラーレン重合体の開発を通じて、次世代太陽電池の開発を加速し、自立性の高いエネルギー資源の創成を目指す。



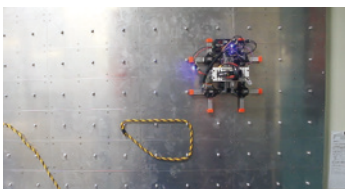
7 AISLAB

立命館大学 李 周浩 氏



空間の再構成を行う Mobile Module

壁や天井面に一定の間隔でつけた小さい突起を掴みながら移動する Mobile Module に空間内のセンサや照明などのデバイスを乗せることで、部屋の利用状況やユーザーの動きに合わせて空間の再配置ができる、フレキシブルな空間設計が可能とする。



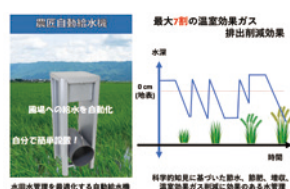
8 農匠ナビ株式会社

農匠ナビ株式会社 小川 諭志 氏



環境に優しく収量も増える稲作自動水管理技術

水田から排出されるメタンは強力な温室効果ガスで、その効果は1 ha 当たり乗用車の20万 km 走行に匹敵する。適切な水管理を行うと、最大7割削減でき、節水・増収も可能になる。弊社が開発した給水装置を使ってこれらの水管理を最適に自動化し、脱炭素社会の実現を目指す。



9 株式会社DNAセキュリティ研究所

長浜バイオ大学 大島 淳 氏



DNAを識別子とした真贋判定技術

ブランド物のような無生物の場合が多い物品を、DNAを識別子として真贋判定するためには秘匿されたあらかじめ配列のわかっている DNA を物品に塗布または忍ばせることにより遺伝子検査を行うことが可能である。遺伝子検査にはPCR技術等々を用いる。



開催概要

〔開催日〕2022年7月9日(土) 〔会場〕びわ湖大津プリンスホテル

プログラム

12:30	開場
13:00 - 13:45	開会挨拶・基調講演
13:45 - 14:30	最終選考プレゼン(①-③)
14:40 - 15:25	最終選考プレゼン(④-⑥)
15:35 - 16:20	最終選考プレゼン(⑦-⑨)
16:20 - 17:20	審査時間 / 第5回滋賀ジュニアリサーチグラント授与式
17:20 - 18:20	審査結果発表および表彰式
18:20 -	情報交換

基調講演

株式会社イヴケア 代表取締役社長 CEO 五十棲 計

2020年滋賀大学大学院教育学研究科を修了、修士(教育学)。同大学の大平准教授と連携し、2018年7月には滋賀テックプラングランプリのファイナリストとして選出され、パナソニックアプライアンス社賞を受賞。7月に東京で開催されたバイオテックグランプリでもファイナリストに選出され、日本ユニシス賞と竹中工務店賞を受賞。2019年1月11日に滋賀大学からの大学発ベンチャー第1号となる株式会社イヴケアを設立。



第5回滋賀ジュニアリサーチグラント授与式

「滋賀ジュニアリサーチグラント」とは、サイエンスとテクノロジーをベースとした次世代の産業創出のリーダーたる人材の育成を目指し、滋賀県内で研究活動に取り組む中高生を対象に、研究費助成および研究者による研究サポートプログラムです。今年度は「滋賀県内の中高生による自然科学系分野またはものづくりに関する研究」を広く募集し、書類審査により助成採択チームを決定しました。授与式では、滋賀ジュニアリサーチグラントに採択された中高生研究チームに採択証を、滋賀県内研究機関に所属する研究コーチに任命証をそれぞれ授与します。



第4回滋賀ジュニアリサーチグラント授与式の様子

昨年度の様子



知事ビデオメッセージ



プレゼンテーション



質疑応答



ブース交流・情報交換



表彰式



滋賀ジュニアリサーチグラント授与式

SHIGA TECH PLAN GRAND PRIX

第6回滋賀テックプラングランプリ

開催日: 2021年7月31日(土) 会場: びわ湖大津プリンスホテル



2021年度は、研究や技術の社会実装を目指す理工系大学やベンチャー企業、地域企業から合計24チームのエントリーがあり、選考を通過した9チームによる事業化プランのコンテストを開催しました。グランプリでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じて実施し、105名の参加がありました。審査員による審査の結果、最優秀賞1件、企業賞8件が決定しました。また、9チームによるブースも設置し、参加者と連携に向けた議論を行いました。

パートナー企業



関西みらい銀行



KYOCERA



滋賀銀行



TakaRa



TORAY

HASHIMOTO
GROUP

Panasonic



ブース交流会の様子



最優秀賞を受賞したひかる炭素・健康革命と審査員で記念撮影

1 ドラゴンアグリ

龍谷大学

発表者 玉井 鉄宗

テーマ

琵琶湖を中心とした循環型農業の実現
～過去と未来をつないで～



橋本グループ賞
滋賀銀行賞

2 ミクロ世界との触覚遭遇

立命館大学

発表者 小西 聡

テーマ

触れる顕微鏡ロボット



京セラ賞

3 レナートサイエンス

株式会社イーバス / 京都大学医学部附属病院

発表者 長谷川 雪憲

テーマ

人工脂肪を活用した
乳房再建の実現



東洋紡賞

関西みらい銀行賞

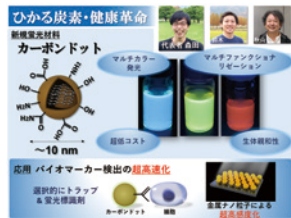
4 ひかる炭素・健康革命

滋賀県立大学

発表者 森田 秀

テーマ

だれでもつくれるカーボンドットで
バイオマーカー検出



最優秀賞
東レ賞

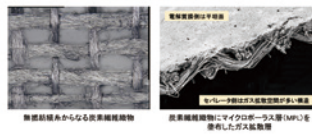
5 ENETEK 株式会社

発表者 高木 順

テーマ

極薄炭素繊維織物の開発

持続可能なエネルギーに欠かせない革新的素材を
びわ湖から世界へ



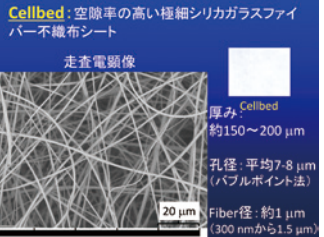
6 Jin-Jutsu

滋賀医科大学

発表者 向所 賢一

テーマ

新規3次元培養システムの
癌研究への応用



7 合同会社 mitei

発表者 井本 望夢

テーマ

滋賀を DS のシリコンバレーに



パナソニック
アプライアンス社賞

8 Air Assist

滋賀県立大学

発表者 西岡 靖貴

テーマ

体位変換をアシストする
空気圧式シート状ソフトロボットの開発



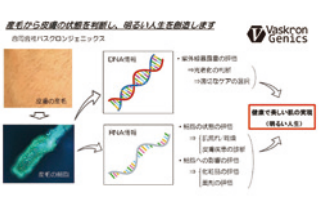
9 合同会社 バスロンジェニックス

長浜バイオ大学

発表者 永井 信夫

テーマ

「産毛1本」からあなたの皮膚を診断して
明るい人生を創ります!



特別賞

滋賀から世界を変える挑戦者たち

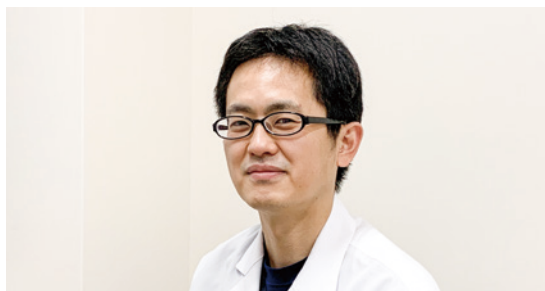
安全で安心な 乳房再建用人工脂肪の 実現に向けて

第6回滋賀テックブラングランプリ

東洋紡賞
関西みらい銀行賞

レナートサイエンス

滋賀医科大学 形成外科学講座 助教 荻野 秀一 氏



2021年7月に開催された「第6回滋賀テックブラングランプリ」にファイナリストとして登壇した「レナートサイエンス」は、グランプリの翌月に法人化。安全で安心な乳房再建用人工脂肪の実現に向け、株式会社レナートサイエンスとして新たなスタートを切った。研究開発担当として参画した滋賀医科大学の荻野 秀一氏は、大型動物実験による研究開発を進めている。

世界初、自家脂肪に置き換わる人工脂肪

2013年、女優のアンジェリーナ・ジョリー氏が、遺伝子検査の結果を受けて、乳がん予防のために両乳房切除・再建手術を受けていたことがニュースになった。乳房の再建には、自家複合組織移植、自家遊離脂肪移植、シリコンインプラントの挿入といった方法が用いられるが、それぞれ課題も多い。そこで、京都大学大学院 医学研究科 形成外科 教授の森本 尚樹氏(京都大学)、グンゼ株式会社と荻野氏(京都大学在学時〜)は、ポリL乳酸(PLLA)でできたメッシュの内側にコラーゲンスポンジを入れた、新しい人工脂肪を開発した。これは、生体内で分解吸収され自家脂肪に置換される、世界初の人工脂肪だ。自家組織を犠牲にすることなく、自然な形態・触感の乳房を再建できる。グンゼ社が高度管理医療機器の許可を受けている素材を使用しており、安全性も高いのが特徴だ。

動物実験による技術コンセプトの検証

これまで荻野氏は、ラットやウサギといった小・中型動物実験によって、技術コンセプトの検証を行ってきた。たとえば、ラットの鼠径部の皮下に新しい人工脂肪を埋入して経過を観察したところ、PLLAメッシュが1年間にわたって内腔を維持し、その内部に脂肪が形成されているのを確認している。ウサギを用いた実験では、埋入1年で形成された脂肪が2年後にも維持されていることが明らかになった。

2019年に滋賀医科大学に赴任後は、大型動物を用いた実験を進めている。PLLAメッシュに人工脂肪30個を入れてひとかたまりにしたものをブタ乳頭(乳房)皮

下へ移植したところ、思わぬ問題が見つかった。手術の6か月後に脂肪形成を確認したのだが、12か月後で、PLLAメッシュが壊れてしまい、脂肪が形成されるはずの内腔が押しつぶされてしまっていたのだ。現在は、その解決に向けてPLLAメッシュの改良を進めている。

動物実験の最終章、そして臨床試験へ

荻野氏は大学院生時代、この人工脂肪の技術を開発した森本氏に師事していた。今回、恩師に誘われてチームに参画することとなった。「乳房再建は、患者さんの負担が大きい手術。手術する医師のストレスも大きく、この新しい人工脂肪は、その両方を減らすことができる。実用化には、とても意味があると思います」。動物実験が終わっても、ヒトを対象とした治験・臨床試験を経て実際に世の中で使われるようになるまでには数年以上かかる。レナートサイエンスは、この長い道のりをチームで乗り切る、スタートラインに立ったところだ。



レナートサイエンスの新しい人工脂肪

滋賀を データサイエンスの聖地へ 地元企業、学生と共に目指す 未来を創る

第6回滋賀テックプランングランプリ

**パナソニック
アプライアンス社賞**

合同会社 mitei

代表 **井本 望夢** 氏

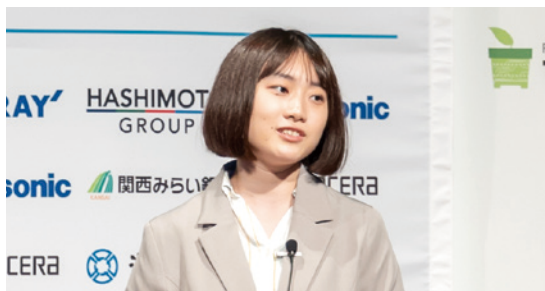
私たちの生活のなかでも、AIの活用が当たり前になってきたが、いざ自分でデータを扱い分析しようと思ったとき、どのようにすればよいのだろうか。誰でも自由にデータサイエンスを扱うことができ、データから新たな価値を創造できる世界を目指し、滋賀大学発ベンチャーとして2020年に合同会社 mitei を立ち上げた井本氏の挑戦を追った。

中小企業や学生と共に実現する データサイエンス時代

勤や経験のみでなく、県内中小企業が当たり前のようにデータを活用できる世界を実現したいと話す井本氏。日本で初めてデータサイエンス学部を設置した滋賀大学で学び、2020年に大学発ベンチャーとして合同会社 mitei を設立した。学生時代に統計学や情報学、そしてデータを生かした価値創造手法について学んできた中で生まれた、データサイエンスが大企業による大企業のためのものではなく、もっと地元企業が活用できるようになることで、多くの現場の課題が解決できるのではないだろうかという想いが創業のきっかけだ。また、同じ滋賀大学で学ぶ学生たちが活躍できる場が限られているという現状に対して、その選択肢を増やすことも目的の1つだ。産業界と研究者、学生が世代や立場を超えて、データサイエンスを通して課題解決を推進し、共に育っていく循環を滋賀から生み出そうという狙いがある。

現場の声を聞き、共に分析、成長していく

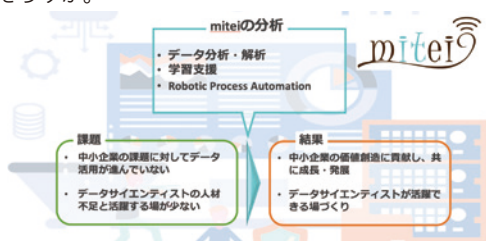
中小企業のマーケティング支援や業務効率化、さらにはアカデミアの研究者のデータ分析など、企業や研究者個人に寄り添ったデータ分析を行うことが mitei の強みだ。データ活用のニーズが増えている一方で、コストや知識の面で、取り組みにくい現状に対して、これらのハードルを下げて、データ活用の導入を促進している。例えば、倉庫業を営む地元企業とは、倉庫の使用状況を可視化し、利用頻度別のヒートマップを作成、配置換えや管理方法の改善を行い、作業の効率化や従業



員の負担軽減を実現した。さらには、数か月先の倉庫の占有率を予測することで、経営者の感覚を数値化する取り組みにも挑戦している。現在、県内を中心に約30社の課題に向き合っているが、学生も積極的に受け入れており、共に課題解決に挑む県内企業を幅広く募集している。

滋賀からデータ活用の最初の一步を踏み出す

2021年には、滋賀銀行が主催するニュービジネス奨励金「しがぎん野の花賞」においてタカラパイオ賞を受賞、滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムが主催する第6回滋賀テックプランングランプリではパナソニック アプライアンス社賞を受賞した。テックプランターの活動を通して、地元企業のみでなく、大企業の研究所やアカデミアの研究者とも新たなテーマに取り組み出したという。研究者にとっても、日々取り扱うデータをどのように分析、統合していくのか、中小企業と同様に、より効果的なデータ活用手法を求めている。滋賀県でデータ活用を活発化させて、県外からも滋賀に来るような、滋賀県をデータサイエンスの聖地にすることを目指す井本氏。共にこのビジョンを共有しながら、データ活用の第一歩を mitei とともに歩み出してみたいかがだろうか。



mitei のサービスイメージ

滋賀から世界を変える挑戦者たち

琵琶湖を中心とした 循環型農業の実現 ～過去と未来をつないで～

第6回滋賀テックブラングランプリ

橋本グループ賞
滋賀銀行賞

ドラゴンアグリ

龍谷大学 農学部 資源生物科学科 玉井 鉄宗 氏



地球環境問題と食料問題は、人類が解決すべき共通の課題として世界中で解決に向けた取り組みが進んでいる。しかし、環境保全と農業振興の両立は簡単ではない。龍谷大学の玉井氏は、古来の農法と未利用資源である水草堆肥、その欠点を先端の科学技術で補うことにより、それを可能とする循環型農業に挑戦し、地元企業と連携して実証を進めている。

伝統農法から学び、循環を見据える

持続可能な地球環境を考える上で、環境負荷の少ない食糧生産の実現は欠かせない。産業革命以前の窒素の循環は、細菌と植物が大気中の窒素を固定していたために、自然と成立していた。しかし現在では、大気中の窒素を化学的に固定し、化学肥料として散布されること、工場や火力発電所などから窒素酸化物として大量に大気中に排出されることでバランスが崩れ、すでに持続可能な限界を迎えていると言われている。奈良県天川村の光遍寺住職と龍谷大学の農学部の教員を兼任する玉井氏は、古来の伝統農法に学び、未利用資源の活用、かつ先端技術を導入することで、過去の知恵と未来の技術を現代に活かし、循環と生産性の両方を備えた農業の実現を目指している。

滋賀県産の水草を未利用資源として活用

未利用資源として注目したのは琵琶湖の水草堆肥だ。龍谷大学農学部が立地する滋賀県では年間5000～6000トンが刈り取りされ、有効利用法が検討されてきた。堆肥として利用することで、水草による炭素固定を推進しながら、肥料として利用しようという考えだが、肥料としての普及させるには、その特性を明らかにし、高収量・高品質の作物生産を可能にする必要があった。小松菜を用いた実験で、水草堆肥と化学肥料を組み合わせることで、生産性が向上するとともに、土壌中の物理性・化学性が向上し、土壌微生物が豊かになること、さらには、バイオスティミュラントとして成長を促進する効果も明らかとしており、今後は農地での実証を進めようという計画だ。

地域循環を追求した食と農の未来を

実証を進める中で、農業現場との連携可能性を広げるために、滋賀テックブランダーにエントリーした玉井氏。2021年7月の第6回滋賀テックブラングランプリにおいて、橋本グループ賞、滋賀銀行賞を受賞し、橋本グループである株式会社彦根麦酒と共同研究を開始。2021年10月より、琵琶湖の水草堆肥を利用したビール麦の栽培に挑戦している。地元の肥料を用いて麦やホップを生産し、彦根の工場ビールを生産するという究極の地域循環型の農業モデルだ。水草堆肥の利活用は、日本国内のみでなく世界中で求められる技術である。滋賀発の循環型農業の実現が、世界中の食と地球環境を支える未来に繋がることを期待してほしい。



彦根麦酒荒神山醸造所で水草堆肥の実証を開始

生き物のちからで 医療・水環境・脱炭素の 課題に挑む

～滋賀から地球規模の
課題解決を挑むベンチャー企業～

第2回滋賀テックブランプリ

関西アーバン銀行賞
特別賞

株式会社ノベルジェン

代表取締役 CEO 小倉 淳氏



豊かな水資源に囲まれた滋賀県長浜市で2019年に誕生した株式会社ノベルジェン。生き物から学び、その力を最大限に活用することで、滋賀発で世界の医療、水環境、脱炭素の課題解決に挑むベンチャー企業だ。2017年の滋賀テックブランプリをきっかけに、長浜バイオ大学から創業し、すでに産業界への応用、実用化を見据えた実証を開始している。

世界最小のイカから安全な医療用接着剤を

2017年当時から小倉氏が続けてきた研究の1つが、生物由来の接着剤(バイオグルー)の研究だ。現在、医療現場で実用化されているフィブリン系とシアノアクリレート系の接着剤は、ウイルス感染の恐れや毒性が懸念されており、その安全性に課題が残されている。そこで、小倉氏は、海中で粘着物質を分泌してアマモの葉に付着するヒメイカに注目。この粘着物質を大量生産し、医療現場に応用できれば、接着・剥離が簡単で、水中で使用でき、無毒で生分解性がある接着剤が実現できるかもしれない。2019年に株式会社ノベルジェンを設立し、1つ目の事業の柱として、現在医療用接着剤のプロトタイプ作成に成功し、安全性試験へと研究フェーズを進めている。

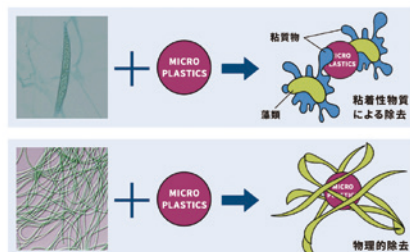
微生物の力で水環境の改善と 脱炭素社会の実現に挑む

次に小倉氏が注目した生物は、粘着性物質を分泌する微細藻類。水環境中のマイクロプラスチックや、温暖化ガスの削減は、地球規模で解決すべき人類の共通の課題として深刻化している。そういった中で、この微細藻類を産業応用することで、上述の2つの課題を同時に解決できる可能性が示された。2019年12月には、海ごみ削減プロジェクト「IKKAKU」において、3年間で1.5億円という予算を獲得、2021年9月には農林水産省のスタートアップ総合支援プログラムの採択を受け、ブルーカーボנקレジット創出機の開発に取り組んでいる。水質浄化システムに、粘着性物質を分泌する微細藻類を組み込むことで、マイクロプラスチック

や有害物質の除去、そして二酸化炭素の吸収も実現可能になる構想だ。

長浜バイオ大学発の技術で人と地球を

必要となる次のステップは、すでに開発を進めている水質浄化システムの実証とスケールの拡大だ。日本一の広さを誇る琵琶湖において、水環境の改善を実現できれば、滋賀発の技術で世界へ踏み出すための大きな後押しになるだろう。現在、このシステムを導入し、実証試験に協力してくれる企業、そして株式会社ノベルジェンの一員として、地球規模の課題に挑む仲間を募集している。今はまだ、県内の小さなベンチャー企業だが、世界へ羽ばたく日はそう遠くないだろう。



滋賀から世界を変える挑戦者たち

ストレスを力に変えて、 ひとりひとりの ウェルネスに貢献する

第2回滋賀テックブランングランプリ

リバネス賞

第3回滋賀テックブランングランプリ

**パナソニック
アプライアンス社賞**



株式会社イヴケア

代表取締役社長 CEO **五十棲 計氏**

2019年1月、滋賀大学発ベンチャー第1号「株式会社イヴケア」が生まれた。少量の毛髪でストレス関連物質を分析できる技術を元に、毛髪が健康を予測する新社会の実現を目指す。同社の代表取締役CEOは、滋賀大学教育学部研究科修士課程2年（当時）の五十棲計氏、取締役位同大学教育学部准教授の大平雅子氏、教育学部教授の芦谷道子氏を迎えて創業した。

学生の決意が大学を動かした

2017年7月、大平氏は企業との共同研究につながればと、当時ラボの学生だった五十棲氏を聴講者として連れだって第2回滋賀テックブランングランプリに参加。その場で研究者達が本気で世の中を変えようと奮闘する姿に感化された五十棲氏は、修士課程への進学と創業を決意することになる。

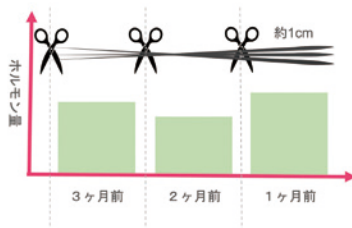
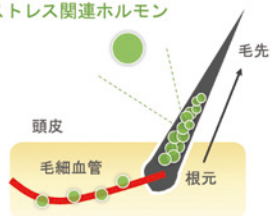
翌年7月に開催された第3回滋賀テックブランングランプリでは五十棲氏がファイナリストとして発表し、パナソニック アプライアンス社賞を受賞。9月に東京で開催されたバイオテックグランプリでは竹中工務店賞、日本ユニシス賞を獲得した。その後、臨床心理学を専門とする同大学の芦谷氏が創業メンバーとして参画。その躍進は滋賀大学の位田元学長をも突き動かした。ベンチャー認定制度を有していなかった滋賀大学は、たった数か月の間でベンチャー認定制度を整え、2019年1月には第1号ベンチャー企業として株式会社イヴケアが誕生することとなった。

毛髪から“ココロ”をみつめる

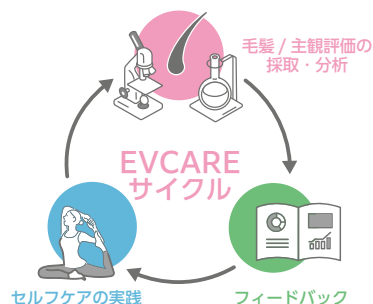
イヴケアでは、大平氏の技術をもとにした「毛髪からの慢性的なストレス評価」、芦谷氏の技術から生まれた“ストレス評価後の適切な支援”を組み合わせた事業を展開している。2020年には滋賀県近未来技術社会実装推進補助金を活用し、就労者200名に対してストレスチェックサービスを提供。ここで取得したデータをもとに指標開発を行い、2021年には、チームや集団、組織のメンタルヘルスの改善を目指す“イヴケアパック”のサービスを開始した。地元滋賀では、プロバスケットボールチームである滋賀レイクスターズとも連携し、選手のメンタルヘルスのケアサポートにも取り組んでいる。

今後はより多くの企業にイヴケアのサービスを知ってもらい、事業開発を進めていくフェーズになる。「優しい眼差しに満ちたWell-beingな社会」を実現するための挑戦はまだこれからだ。

ストレス関連ホルモン



私たちの血液には、ストレス（刺激）によって分泌されるホルモンが含まれており、毛髪は、このホルモンを毛細血管等から取り込みながら伸長する特性がある。そのため、毛髪を根元から分析することによって、健康に害を及ぼす中長期的なストレスについて評価することができる。

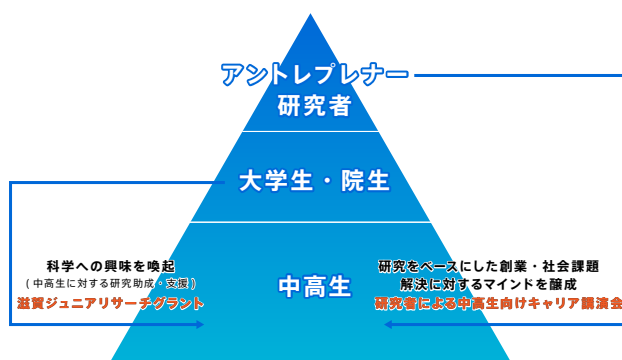


未来の滋賀を 共に創造する 次世代の育成

滋賀中高生科学研究活動支援助成金

滋賀ジュニアリサーチグラント

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムでは、滋賀県から世界を変える可能性を秘めた産業が継続的に発掘・育成されるエコシステムの構築に挑戦しています。その一環として、サイエンスとテクノロジーをベースとした次世代の産業創出のリーダーたる人材の育成を目指し、滋賀県内で研究活動に取り組む中高生を対象に、「滋賀ジュニアリサーチグラント」として研究費助成および研究者による研究サポートプログラムに取り組んでいます。



第4回滋賀ジュニアリサーチグラント 採択テーマ一覧

滋賀県内各校からのご応募のうち、以下の全8件を採択しました。

採択テーマ	代表者(所属)		研究コーチ(所属)
水草の肥料としての有効性を電気伝導率を用いて証明する	小島 衣央里 守山市立守山中学校	×	今井 彩乃 立命館大学大学院
八幡堀の泥を使った微生物燃料電池の環境改善における可能性	野村 京亮 滋賀県立八幡工業高等学校	×	鈴木 紗也華 京都大学生態学研究センター
石垣の組み方による耐震強度について	押谷 憲二 滋賀県立彦根東高等学校	×	高部 航南 立命館大学大学院
目田川、金森川流域におけるニホンイシガメの生態調査	奥田 優 立命館守山高等学校	×	瀬上 陽子 龍谷大学大学院
琵琶湖上空に出現するローター雲の正体に迫る	馬場 智哉 光泉カトリック高等学校	×	矢澤 大志 Vietnam Japan University 立命館大学
姉川最上流部の環境の変遷をたどる	福嶋 啓志 滋賀県立米原高等学校	×	安田 蓮 滋賀県立大学院
琵琶湖のマイクロプラスチック	古谷 和暉 滋賀県立高島高等学校	×	神代 康輔 立命館大学大学院
オオクチバスの特性を調べる	江南 匡駿 滋賀県立守山高等学校	×	鈴木 智貴 立命館大学大学院

参加者からの声

参加生徒

研究コーチからは、研究方法で困っているときに的確なアドバイスをもらったり、考察をまとめる際に自分たちには無い視点からの考えをもらえた。

一緒に研究を進めるのがとても楽しかった。

指導教員

研究コーチのアドバイスで生徒が自信をもって研究に取り組むことができた。生徒がより良い研究を自ら考えようとしていた。

年齢の近い研究コーチからの助言はとても聞き入れやすく、生徒たちが次のステップに進むための力をいただいた。

研究コーチ

第三者として研究の問題に取り組むことで普段では思いつかないアイデアが浮かび、研究を俯瞰する視点に気づけた。

ポスター交流では中高生が自分たちの研究にも興味をもって質問してくれた。彼らの知識欲やポスター発表のレベルの高さに驚いた。

成果発表会



開催日 2022年1月16日(日)

会場 滋賀県庁 新館7階大会議室

滋賀県教育長 福永氏より

みなさんの発表を聞いて、コロナ渦で活動も制限されるなか、工夫をしながらしっかりと活動した成果が伝わってきた。時代は変化していく。何が正解か分からない世界がくる。今後も滋賀で学び、そして滋賀から世界を変えていく、そんな若者に育ててほしいと思いました。そのために大人もしっかりサポートしていきたい。滋賀県としては、教育の現場に様々な方々に関わっていただけることを願います。



受賞結果

最優秀賞

光泉カトリック高等学校

琵琶湖上空に出現する
ローター雲の正体に迫る



滋賀発成長産業発掘・育成 コンソーシアム賞

滋賀県立八幡工業高等学校

八幡堀の泥を使った微生物燃料電池の
環境改善における可能性



京セラ賞

滋賀県立高島高等学校

琵琶湖のマイクロプラスチック



タカラバイオ賞

滋賀県立米原高等学校

姉川最上流部の環境の変遷をたどる



東洋紡賞

守山市立守山中学校

水草の肥料としての有効性を
電気伝導率を用いて証明する



橋本建設賞

立命館守山高等学校

目田川、金森川流域における
二ホンインガメの生態調査



琵琶湖上空に出現するローター雲の正体に迫る

最優秀賞 光泉カトリック高等学校 自然探求部

光泉カトリック高等学校 自然探求部では、2020年4月より学校周辺の雲の観察を行ってきた。2020年11月のある日、メンバーがいつものように雲を観察していると、まるで竜のような、特異な巨大雲が出現した。この雲は12月になると度々出現し、調べてみると「ローター雲」と呼ばれていることがわかった。同じく気象研究を行う京都府立桃山高等学校に問い合わせると、京都では、同じ時間にこの雲は出現しておらず、どうやら滋賀県特有の雲である可能性があるようだ。そこで、このローター雲の発生原因についてより詳細に迫っていくことにした。

上空の風向・風速を調べるために観測気球を上げ、測風観測機で追跡したり、気象庁データとあわせて分析するなど、発生条件を絞り込んだ。また、地形や風向が似ている京都盆地と条件を比較分析したところ、この雲の発生には琵琶湖の影響が大きいことが明らかになった。「琵琶湖六郎」と名付けたこの滋賀県特有のローター雲。季節外れの冬型の気圧配置となった2021年10月、彼らの仮説通りに琵琶湖六郎が出現した。懸命に取り組んできた研究成果が裏付けられた瞬間だ。

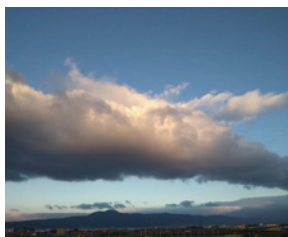
研究コーチ

矢澤 大志

Vietnam Japan University / 立命館大学*

研究の全体デザインから継続したデータ収集、そして成果発表まで自分たちの力で成し遂げたことは本当に素晴らしいと思います。これからも一緒に科学を追求し、社会へ貢献していきましょう！

※当時の所属



ローター雲



観測の様子

八幡堀の泥を使った微生物燃料電池の環境改善における可能性

滋賀県成長産業発掘・育成
コンソーシアム賞

滋賀県立八幡工業高等学校 科学研究同好会

滋賀県立八幡工業高等学校 科学研究同好会では、以前より観光地でもある八幡堀の景観を損なわずに水質改善する研究に励んできた。八幡堀では琵琶湖の水質に比べて酸素の含有量が少ないことや、水底にヘドロ化した泥が堆積していることがこれまでの調査からわかっている。近年は電気分解に注目した水質改善の方法に取り組んできたが、先行研究を調査していくうちに、「微生物燃料電池」の存在を知った。微生物燃料電池とは、泥水中の微生物が有機物を代謝する際に出す電子を利用して発電する発電システムのこと。これを活用すれば、外部電力を必要とせずに水質改善もできるかもしれない。

いままでとはまったく逆の発想で、環境改善への可能性を探る新たな研究テーマが立ち上がったのだ。

まずは八幡堀のヘドロが微生物燃料電池に活用可能かの検証からスタート。研究を進める中では、電極ホルダーやセルを3Dプリンタを使って自作するなど、工業高校らしくものづくりの要素をもたせて取り組んだ。実際に、ヘドロを使った発電に成功し、またその発電効率を向上させる条件についても検討することができた。ポータブル化や微生物の活性化など、より実用的な微生物燃料電池システムの開発を今後も進めていく。

研究コーチ

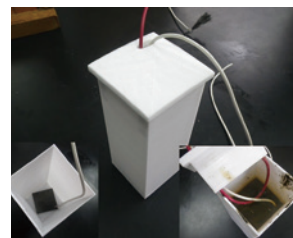
鈴木 紗也華

京都大学 生態学研究センター

思うように研究活動ができなかった期間もありましたが、そんな中でも様々な実験を組み立て、着実に結果を出してきました。みなさんの努力や研究への姿勢に、私自身も刺激をもらいました。ぜひ今後も燃料電池の研究を発展させていきましょう。



八幡堀の様子



ポータブル式微生物燃料電池

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムは、サイエンスとテクノロジーをベースとした次世代の産業創出のリーダーたる人材の育成を目指し、県内で研究活動に取り組む中高生を対象に、「滋賀ジュニアリサーチグラント」として、研究費助成および研究者による研究サポートを実施しています。2022年度も参加チームの募集を行いました。これから研究を始める方も、研究をさらにレベルアップしたい方も、それぞれの状況に合わせて支援いたします。

募集テーマ	滋賀県内の中高生による自然科学またはものづくりに関する研究
助成対象	滋賀県内の中学生、高校生の個人またはチーム（これから研究活動を行う方の応募も可能）
助成内容	・研究助成金10万円 ・研究者による研究サポート（大学の研究者や株式会社リバネス社員）
採択件数	若干数（同一校からの複数応募も可）
選考基準	・申請書に不備がないか。わかりやすく記述できているか。 ・研究チームに熱意があるか。 ・課題設定→文献調査→仮説設定→検証実験の流れがあるか。
募集期間	2022年4月1日（金）～2022年5月30日（月）※本年は募集終了
詳細	https://shiga-consortium.com/dai5kaishigajrg/ 

第5回滋賀ジュニアリサーチグラント 採択テーマ一覧			
採択テーマ	代表者（所属）		研究コーチ（所属）
琵琶湖の外来種ブラックバスの医療への活用法	武島 ななみ 滋賀県立守山高等学校	×	吉田 悟 立命館大学大学院
八幡堀の泥を使った微生物燃料電池 ～新システムによる実用化に向けた挑戦～	辻 陵妥 滋賀県立八幡工業高等学校	×	野村 泰暉 立命館大学大学院
琵琶湖のマイクロプラスチック	新谷 さくら 滋賀県立高島高等学校	×	周 禹彤 立命館大学大学院
琵琶湖の水草の肥料としての有効性を水耕栽培を用いて証明する	小島 衣央里 守山市立守山中学校	×	沈 尚 国立環境研究所
放射線量による地質境界線の決定	小坂 裕 光泉カトリック高等学校	×	伊東 秀一郎 滋賀県立大学大学院
ソーラーボートにおける水の抵抗低減による速度向上について	富田 惺絆 守山市立守山南中学校	×	藤井 康之 立命館大学大学院
植物の生長と周波数の関係	橋本 花菜 立命館守山高等学校	×	長谷川 柊人 滋賀県立大学大学院
デジカメ吸光・分光分析	谷川 愛歩 滋賀県立甲南高等学校	×	田中 萌 滋賀県立大学大学院
太陽活動を追う	高山 涼太 滋賀県立彦根東高等学校	×	安田 蓮 滋賀県立大学大学院

【お問い合わせ】

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム事務局

TEL:06-6125-5622 / Mail:shiga@lnest.jp / 担当:株式会社リバネス 正田・磯貝



滋賀の創業エコシステム



滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムでは、コンソーシアムが提供するテックプランターをはじめとした、リアルテックススクールなどのプログラムだけではなく、県内の様々な取り組みとの連動が重要と考えている。例えば、県内のビジネスプランコンテスト等からのアントレプレナーの発掘や、エントリー後の地元企業と連携による試作開発支援、実証試験フィールドの提供、地域金融機関による資金調達などがある。これら、滋賀県内のリソースを最大限活用することが、滋賀ならではの創業エコシステムの構築に繋がると考えている。

今号では、コンソーシアムが提供するプログラムと合わせて、県内で連動可能な前後プログラムも表に整理し紹介する。すでに活用実績があるプログラムについては、チーム名、社名も記入した。これからエントリーを検討するチームも、エントリー済のチームも、ぜひ活用を検討していただきたい。

Real-Tech School

リアルテックスクール

テクノロジーベンチャーの設立・経営支援に関する経験豊富な講師陣による動画コンテンツを活用し、フェーズの異なる相談者がそれぞれ抱える課題をクリアするきっかけやノウハウを提供します。

2022年9月～順次公開

対象

- テックプランターに参加した研究者・起業家・ベンチャー
- 次年度以降のテックプランターへの参加を希望する学生、研究者、起業家候補

提供方法

- リバネスのコミュニケーターが、相談者の状況に合わせて適切なコンテンツをリコメンドする
- リバネスIDにログインして、動画にアクセスする

コンテンツ例

大学・研究機関の研究者向け

事業化

会社設立

チーム体制

創業ベンチャー

資金調達・資本政策

知的財産

法務・労務

利用イメージ

各エントリー者にて動画コンテンツを視聴するほか、同じ動画コンテンツの視聴希望者で集まり勉強会を開催することも可能です。また、動画コンテンツを視聴した後に、専門家に個別相談を行うこともできます。

動画講義 例えば：リバネスID上での運用

講義	導入(マインド)	基礎編1	基礎編2	応用編1	応用編2
会社設立	1	2	3	4	
経営	1	2		3	
人事・労務	1	2		3	
知財・法務	1	2		3	
資金調達	1	2	3	4	
IPO	1	2	3		

対話形式での議論

+



対面の相談会
合宿 など



投資 プレゼン会



2016年から始まった滋賀テックプランターでは、過去6年間に145チームがエントリーし、そのうち法人化済チームが42件、新たに法人化したチームが9件で、51件の企業がいる※。発掘・育成というフェーズにおいて、企業としての成長を促すための資金面での支援の取り組みとして、2019年度から始めたのが、地域金融機関との連携を促す「投資プレゼン会」だ。投資の可否ではなく、資金調達に向けた交渉の進め方や、必要な資料作成などに関する知識を得てもらうためのサポートが目的だ。

※ 2022 年 3 月 31 日時点

コンソーシアム構成機関

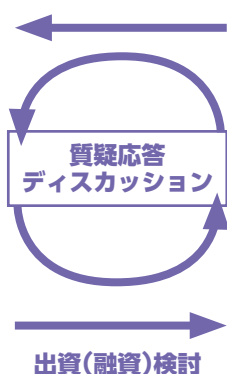
株式会社滋賀銀行
株式会社関西みらい銀行
株式会社リバネス

関連金融機関

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
りそなキャピタル株式会社
リアルテックホールディングス株式会社
株式会社リバネスキャピタル

※参加実績のある金融機関

プレゼンテーション



滋賀テックプランター
エントリー者

実施後に想定される動き

出資(融資)の具体的な条件の提示 / 連携に関心のある企業の紹介 / 個別の打ち合わせ

SHIGA TECH PLANTER 滋賀テックプランター 試作支援補助金

来年度も
募集予定

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムでは、事業化した滋賀テックプランター参加チームのさらなる成長促進のため、県内のものづくり企業と連携して取り組む試作開発を補助する試作支援制度を実施します。

対象事業

滋賀テックプランターにエントリーしたテーマ、
または関連テーマに関する試作開発

対象者

滋賀テックプランターにエントリーしたことがある（前年度以前）

- ・滋賀県内に本社事務所を有する中小企業者（個人事業主を含む）
- ・滋賀県を活動拠点とする者
- ・起業を検討する者

補助率

補助事業に要する経費の10分の10以内

補助限度額

1件当たり200万円以内

補助対象経費

原材料費

試作開発に要する原材料、
副資材および消耗品の購入に要する経費

外注加工費

試作開発に要する原材料等の再加工・設計・依頼等を行う場合に
外注加工先への支払いに要する経費
※滋賀県内に主たる事務所を有する事業者への発注に限る

その他の経費

上記に掲げるもののほか、特に必要と認める経費

募集期間

令和4年4月1日（金）から5月17日（火）まで ※本年は募集終了

- ・募集期間内に要綱に定める事業計画書と関係書類を提出してください。
- ・要綱・要領等の詳細は、滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムホームページでご確認ください。

審査・採択

令和4年6月中旬 採択決定予定

審査会による審査結果をふまえ、交付決定します。

採択企業の声

株式会社ノベルジェン 小倉 淳氏

医療用の試作開発は、数十万円規模ではできないので今回の支援は非常に助かりました。お陰様で、既存の上市製品を超えるスペックを実現できました。また、産業支援プラザの方からは、PMDA（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）へ申請するための助言もいただきました。いろいろな面で、実用化へ向けた一歩となりました。引き続き着実に前進していきたいと思います。



お問い合わせ

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム事務局（担当：岡村）

TEL 077-528-3794

Mail moves@pref.shiga.lg.jp

滋賀の起業・スタートアップ支援施策・環境

資金面の支援

潜在期

起業準備期

起業期

成長期

創業応援隊による起業準備者育成支援事業
滋賀県産業支援プラザ

草津市大学連携型起業家育成施設入居補助金
草津市

長浜市創業支援シェアオフィス入居補助金
長浜市

滋賀県小規模事業者新事業スタートアップ支援補助金
滋賀県

開業資金
滋賀県産業支援プラザ、商工会議所、商工会

関西みらい共同研究助成金
関西みらい銀行

(R3)合同会社バスクロンジェニックス / (R3)株式会社レナートサイエンス /
(R2)株式会社クロスエッジラボ / (R2) 株式会社京都科学(※未来看護
工房との共同研究) / (R1) 株式会社イヴケア (R1) 株式会社ノベルジェン /
(R1) 株式会社メディカルフロント / (H30) 株式会社 tiwaki /
(H29) ウェトラブ株式会社 / (H29) 株式会社プロキダイ /
(H28) 株式会社トランスポート / (H28) 株式会社ミュー

新創業融資制度
日本政策金融公庫

試作支援補助金
滋賀県成長産業発掘・育成コンソーシアム

(R2) 株式会社ノベルジェン

インキュベーション施設賃借料補助金
大津市

長浜市起業支援事業補助金
長浜市

滋賀県近未来技術社会実装推進事業補助金
滋賀県

(R2) 株式会社イヴケア

滋賀県海外展開トップランナー企業支援事業補助金
滋賀県

滋賀県市場化ステージ支援事業補助金
滋賀県

(R1) 株式会社みんなの奥永源寺 / (H30) 有限会社ヴァンテック /
(H30) 株式会社メディカルフロント

びわこ・みらい活性化ファンド (FUNAZUSHI ファンド)
関西みらい銀行・フューチャーベンチャーキャピタル

インキュベーション施設発立地促進助成金
大津市

公的インキュベーション施設退去企業立地促進補助金
草津市

インキュベーションセンター発立地助成金
長浜市

情報・アドバイスの提供

ビジネスカフェ事業

滋賀県産業支援プラザ

SUMS EDGE-NEXT

滋賀医科大学

2022年度は3チームが滋賀テックプランターにエントリー

創業スクール

関西みらい銀行ビジネスプラザ

株式会社イヴケア / ワンパーティクルユニバース

サタデー起業塾 / 野の花賞

滋賀銀行

2021年度は、株式会社イヴケアが野の花賞特別賞を受賞

よろず支援拠点

滋賀県産業支援プラザ

滋賀テックプラングランプリ

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム

リアルテックススクール

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム

商圈分析（商圈マップ）

滋賀県産業支援プラザ

投資プレゼン会

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム

創業応援デスク

関西みらい銀行

創業応援バック（設立5年未満）

関西みらい銀行

技術に関する相談・支援

滋賀県工業技術総合センター、滋賀県東北部工業技術センター

ビジネスプラザびわこ個別相談（専門家相談）

関西みらい銀行

ビジネスマッチング支援

関西みらい銀行・みなと銀行・リそな銀行・埼玉りそな銀行

レンタルオフィス / オフィススペース

創業プラザ滋賀

滋賀県産業支援プラザ

株式会社クロスエッジラボ 入居中

Biz Base コラボ 21

滋賀県産業支援プラザ

レンタルラボ（滋賀県工業技術総合センター技術開発室）

滋賀県工業技術総合センター

滋賀県立テクノファクトリー

滋賀県

滋賀県立 SOHO ビジネスオフィス（米原）

滋賀県産業支援プラザ

滋賀県立大学産学連携センター

滋賀県立大学

長浜バイオインキュベーションセンター

長浜市

立命館大学 BKC インキュベータ

中小企業基盤整備機構

龍谷大学 REC レンタルラボ

龍谷大学

滋賀の創業応援

創業の促進や事業活動の活性化は、地方が成長する活力を取り戻すための重要な要素として位置付けられている。それが、ひいては人口減少を克服することや、次世代の育成にもつながる大きな起点となるからだ。

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムには、滋賀県の経済を支える2つの地方銀行が参画している。その狙いは、発掘・育成されたテクノロジーベンチャーが、次なる成長を遂げるために必要となる金融面での各種サポートまでもシームレスに取り込むためだ。金融機関としての強みを活かしたこれらのプログラムと相互連携を図ることで、コンソーシアムが目指す地域に根ざした創業エコシステムの構築も加速されていく。



滋賀銀行

野の花から大輪の花を目指して

株式会社 滋賀銀行

「滋賀県からも多くの上場企業が生まれてきてほしい」との願いからスタートしたサタデー起業塾は、成長分野における各界のトップランナーによる講演を通じて、第二創業や

新たに起業を目指す参加者にビジネスヒントを提供してきた。そして、参加者の新たな事業計画に関して、その事業性を評価し「しがぎん野の花賞」として表彰してきた。

創業・新規事業開拓の支援

「ニュービジネスの種をまき、
芽を育て、花を咲かせる」

ニュービジネス（『野の花』）の支援・育成を地域金融機関の使命と考え、起業を目指す個人（学生含む）やベンチャー企業、さらには第二創業をお考えの企業まで幅広くサポートしています。

サタデー起業塾 / 野の花賞

野の花応援団

しがぎん地方創生SDファンド

クラウドファンディング



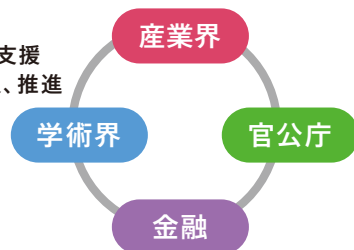
新規事業の創出を応援

官民連携・産学官金連携の取組

「地域連携で大きな力を発揮する」

地域連携により、地域の資源と地域の資金を結びつけ地域経済の好循環を生み出し、経済の活性化による地域のイノベーションの創出を目指しています。

- 交付金の活用
- 公有財産の活用
- 産学官金連携の支援
- PPP/PFIの普及、推進





関西みらい銀行

ワンストップサービスによる支援体制で、 滋賀の未来を創造する

株式会社 関西みらい銀行

新事業創出支援に力を入れる関西みらい銀行。その代表的な取組が中小企業と教育研究機関との連携加速を狙う「関西みらい共同研究助成金」事業だ。これまでの9年間で79件、1.5億円を超える支援を行い、滋賀テックプランターとともに新事業の創出を支えてきた。また、2018年には「びわこ・みらい活性化ファンド(FUNAZUSHI ファンド)」の組成により、事業の発展・拡大をサポートする体制を整えた。

2019年には「創業・スタートアップ」、「ビジネスマッチング」、「人材ソリューション」に関する相談に対応可能な拠点として「ビジネスプラザびわこ」を大津市に開設。2021年には「びわこ創業あきんど塾」として滋賀県信用保証協会との共催による創業スクールも開講し、ベンチャー発掘・育成に向けたワンストップサービスによる支援体制をさらに拡充させた。

びわこ創業あきんど塾 / 関西みらい銀行・ビジネスプラザびわこによる個別支援



新事業の創出・発掘・育成

事業の発展・拡大



第1期「びわこ創業あきんど塾」の様子

関西みらい共同研究助成金

優れた技術を有する中小企業と教育研究機関との共同研究を支援すべく、2013年よりスタート。共同研究に対して1プランあたり200万円を助成し、地域経済の活性化に資する事業をサポートする。2021年度は、滋賀テックプランターエントリーチームである合同会社バスクロンジェニックス、株式会社レナートサイエンスを含む計10件が採択された。

2021年度採択企業一覧(50音順)

企業	共同研究プラン	連携教育研究機関
株式会社 Air Business Club(滋賀県草津市)	深度画像による物流品質管理システムの開発	滋賀県立大学
近江度量衡株式会社(滋賀県草津市)	農業 DX の基盤となる AI 選別機の開発研究	立命館大学
大阪ヒートクール株式会社(大阪府吹田市)	アニマルセラピーを実現する 温冷触覚センシング・提示技術の開発	立命館大学
京ダイアグノスティクス株式会社(京都市左京区)	大腸がん個別化医療における 革新的抗がん剤選択方法の開発	大阪医科薬科大学
トワロン株式会社(大阪府堺市)	アーク放電の誘発を利用した設置型除草装置の開発	近畿大学
合同会社バスクロンジェニックス(滋賀県長浜市)	産毛核酸情報による低侵襲な皮膚診断システムの研究実証	長浜バイオ大学
株式会社彦根麦酒(滋賀県彦根市)	「オール彦根クラフトビール」の商品開発に向けて ～彦根産ビール酵母の分離と試験醸造～	長浜バイオ大学
藤野興業株式会社(大阪府富田林市)	廃ガラスカレットを用いた特殊圧密試験	大阪工業大学
株式会社 山正(滋賀県長浜市)	「伊吹もぐさ」復活に適した オオヨモギ新品種の創出とその実証	長浜バイオ大学
株式会社レナートサイエンス(京都市左京区)	乳房再建用人工脂肪の開発 自家脂肪組織の再生を目指して	滋賀医科大学

びわこ・みらい活性化ファンド(FUNAZUSHI ファンド)

滋賀県と締結した包括的連携協定に基づく連携事業の一環として組成され、投資先企業にじっくりと成長してほしいとの思いから、「FUNAZUSHI ファンド」の愛称でよばれる。滋賀テックプランターのエントリーチームを含め、滋賀県の地域経済活性化に貢献する事業を投資対象としており、これまでに計5件(5,000万円)の投資を実行した。

ファンド名称	びわこ・みらい活性化投資事業有限責任組合 (FUNAZUSHI ファンド)
設立日	2018年6月29日
ファンド総額	100百万円(当初)
運用期間	10年(最長2年の延長可能)
組員構成	有限責任組員:株式会社関西みらい銀行 無限責任組員:フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
投資対象	滋賀県内において地域経済活性化に貢献する以下の事業 地域のブランド確立に貢献する新規事業 地域のインバウンド集客増加につながる観光事業 地域の「食」ブランドの向上を目指す事業 地域でのSDGsに基づく社会課題解決に寄与する事業 その他地域経済活性化に貢献する事業

お問合せ

**関西みらい銀行
ビジネスプラザびわこ**

滋賀県大津市中央4-5-12
関西みらい銀行びわこビル 2階

【営業時間】平日9:00～17:00(土日・祝日休業)
【電話番号】077-511-9155

滋賀から世界を変えるベンチャーを！

研究開発型ベンチャーの発掘育成事業

滋賀テックプランター



SHIGA
TECH PLANTER®

グランプリ 2022年7月9日(土)

場 所 びわ湖大津プリンスホテル(滋賀県大津市におの浜 4-7-7)

表 彰 最優秀賞、他企業賞

その他 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、
開催時期が変更となる場合があります。

Web は
こちら



https://ld.lne.st/shiga/tp_shiga2022/

[主催]

滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム
<https://shiga-consortium.com>

[問合せ先]

滋賀県 商工観光労働部 モノづくり振興課
TEL : 077-528-3794 / Mail : conso@pref.shiga.lg.jp

株式会社リバネス 地域開発事業部
TEL : 06-6125-5622 / Mail : shiga@Lnest.jp